

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 森 俊三

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■[編集後記](#)

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 森 俊三

新年にあたりまして、年頭の所感を述べさせていただきます。

昨年は、震災からの復興の兆しは出てきつつも年央以降に成長のペースが鈍り、世界経済も弱含みで推移するなど、市場環境には引き続き厳しいものがありました。少子高齢化、エネルギー制約など日本が抱える構造的な問題も陰を落としているように思います。今年も、新たな政治の枠組みの下、力強く持続的な成長が遂げられるよう、目指すべき日本の将来像を明らかにするとともに、皆が団結して国作りに取り組むことが大きな課題ではないかと思えます。

昨年の塩ビ樹脂の内需は、100万ト強と、ほぼ前年並みの水準になりそうです。前半は前年割れが続いたものの、年央以降、内需は継続して前年を上まわりました。途上国のインフラ需要を反映し世界全体としての塩ビ需要は増大傾向にありますが、隣国の中国では成長が減速しています。円高の影響もあり、輸出は24万トに留まりそうです。塩ビ業界としては、需要の回復・増大に向けて、環境性能を含む塩ビの優れた特長をアピールし、樹脂窓やサイディングなど海外に比べて未開拓の市場を掘り起こし、併せて、創造的なものづくりを進めていきたいと考えております。

ここで、昨年春以降のVECの活動と塩ビ産業の動向について主要なものを3つほど紹介させていただきます。

一つ目は、節電と省エネルギーへの貢献です。原発の運転が止まるなかで猛暑を迎え、電力供給制約には厳しいものがありました。会員各社は、一層の省エネルギーに努めるとともに操業時間を弾力的に調整するなどし、需要家には支障をきたさないようそのニーズに応じて参りました。また、夏冬を



VEC 森 会長

賀詞交歓会でご挨拶頂いた
経済産業省 渡邊審議員

通じ、断熱性能の高い樹脂窓が快適な生活と節電にも寄与したものと考えております。昨年11月には、経済産業省、国土交通省他の後援、10を超える関連団体の協賛を得て、東京大学において「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム」を開催しました。住宅・建物は、その断熱性能を向上させることが必須の要件であることの共通認識を深めることができたと思います。このような省エネは、真っ先に取り組むべきエネルギー対策ですが、社会・経済活動に持続性を与える観点で、安価で安定的なエネルギーの供給、特に電力供給が基本要件であることを忘れてはならないと思います。新政府には、早期にその道筋をつけていただきたいと思います。

二つ目は、“PVC Design Award 2012”です。塩ビの、透明性、加工性、デザイン性、機能性等の特長を生かし、その可能性を拓くことを目的としたコンテストは、昨年二回目を迎えました。デザイナーと、樹脂から最終製品に至る塩ビ産業界の縦横の連携が深化し、応募作品の質を上げ、見事、大賞受賞作が生まれました。他の応募作品のでもすばらしいものがありました。今年も続け、ものづくりについて、塩ビ業界からインパクトのある提案を発信していきたいと思っております。

三つ目は、リサイクルへの取り組みです。昨年、2007年に塩ビ産業としてのリサイクルの取組を表すリサイクル・ビジョンを出して5年あまりが経過しました。この間、リサイクル技術には様々な進展があり、リサイクル支援制度の開発案件で商業化されたものも出ました。昨年のロンドン・オリンピックのスタジアムでも塩ビは活躍しましたが、それらはマテリアル・リサイクルされることとなっており、一部はリオ・デ・ジャネイロのワールドカップ・オリンピックで再利用される予定です。塩ビ製品の優れた環境性能を生かし、世界の塩ビ産業とともに、地球環境問題に継続して取り組んでまいります。

今年も、各界の皆様のご支援を賜りながら、塩ビ需要の回復に向けて高い効果が期待できる活動を協会一丸となって進めて参る所存でございます。



VEC 賀詞交歓会風景

(1月9日開催のVEC賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

■ 年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

あけましておめでとうございます。

2013年は、年初から変化の年となりました。新しい政治、経済環境が持続的な成長へとつながるよう期待したいところです。ポピュリズムに流されず、日本の置かれた環境を客観的に見つめ直し、将来の国のあり方についてしっかりと議論を積み上げながら国の針路を定めることが重要だと思います。

世界経済環境は、まだ、不透明な部分がありますが、米国には復調の兆しがあり、アジアも減速局面を脱しつつあるように見えます。このところ円安と株高が進んでいますが、これが持続的な経済活力の向上と国民の豊かさのにつながって欲しいと願うところです。

今年は巳年。ヘビは長期の飢餓状態にも耐え何回も脱皮して成長することから、海外においても再生や不老不死の象徴とされています。

「再生」と言われれば、リユース、リサイクルが浮かびます。昨年、世界を沸かせたロンドン・オリンピックの競技場で塩ビ製品が使われたのはその象徴的な事例だと思えます。競技場を包み込む外壁として使われたターポリンは、その一部は、2014年に開催されるリオ・デ・ジャネイロのワールドカップと、2016年に同市で開催されるオリンピックで再使用されることとなりました。残りは、リサイクルされて新たな製品に生まれ変わることでなっています。

国内では、被災地宮城県で掘り起こされた塩ビパイプが再生され、「宮城パイプ」として復興に貢献しています。一昨年のエコ・プロダクツ展のブースで使われた塩ビパイプは、多摩川の生態系を守るための魚のシェルターとして使われました。昨年のエコ・プロダクツ展のブースで使った塩ビ波板も、魚の遡上を助ける魚道として使われる予定です。新技術としては、壁紙などを樹脂と繊維分に分離する技術が実用化され、再生樹脂を使った新たなマット類が製品化されるなどの進展がありました。

「脱皮」は、昔の殻を捨てて新しいものに生まれ変わることの象徴でもあります。この意味で、PVC Design Award 2012は、それを形として示すものになったと思えます。創設の年となった2011年に比べて応募作品の質が高まり、産学、関連産業界の連携が深まりました。大賞を含む受賞作品の多くは、デザインとともに塩ビの機能・性能を生かしたもので、産学の連携が互いに良い刺激となっていることを実感します。新しい提案がどんどん出てくることを期待したいと思います。

資源・エネルギー制約や温暖化問題、あるいは、高齢化が進む中で人にも優しい持続性が求められる中で、住宅と建物も「脱皮」が求められていると思えます。ゼロエミ、あるいはLCAでエネルギー消費がマイナス、つまり、太陽光などでの創エネがエネルギー消費を上まわるような住宅・建物が求められています。その鍵を握るのは、断熱性能であり、また、耐久性とメンテナンス性です。樹脂窓を含め、塩ビ建材の果たす役割は大きいと思えます。

干支のヘビに象徴される「脱皮」、「再生」にあやかり、今年が塩ビ産業にとって末永い発展の礎となることを祈念したいと思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

■ 編集後記

あけましておめでとうございます。

早いもので、あっという間に正月休みも終わり。年々正月らしさがなくなっているような気がします。

我が家では毎年恒例の餅つきが中止（つき手不足の為）。羽子板（見かけません）、凧揚げ（電線にひっかかるので出来ません）など見かけなくなったものが増えました。

それにひきかえクリスマスの勢いはすごかった。都内の有名スポットでなく近所でも家全部がLEDイルミネーション、普段は誰もいないケーキ屋さんには長蛇の列など。

子供の頃はクリスマスより正月の方が楽しかったな。お年玉もらっておもちゃ屋さんに行きガンプラ（ガンダムのプラモデル）を買う。

パソコンもゲーム機も携帯もないあの頃もよかったな　ーツイートー

今年も事務局一同で楽しいメルマガをお届けいたします。お楽しみ下さい（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp